

2025年度セミナー

第9回肢体不自由療育セミナー from 北海道 開催要項

テーマ “新しい枠組みと観点から、療育と教育そして小児セラピーを考える”

10回の開催を目指す当セミナーも9回目の開催となりました。今回はこれまで学んできた講座で示唆された観点を含めて「具体的にどのような指導やセラピーを行っていくのか？」という問いに応えるべく内容としています。

講座1では、この間のセミナーでの学び中で、現在の社会的な「発達」の捉え方の片寄りがあり、また、数量化や定量化する研究対象となりにくいという理由から、人の関係での豊かさなどの広がりである「ヨコへの発達」が蔑ろにされている現実があることが見えました。それでは、どのような「発達」的な観点から指導やセラピーに取り組むことが望まれるのでしょうか。故糸賀一雄氏の発達保障論に学び、この間、学んできた「関係発達論」との繋がりを探り、実践や臨床における子どもたちの豊かな育ちを考えたいと思います。

講座2に関しては、この間、身体を生理学的、解剖学的な物質的存在ではなく、身体性の観点から「生きられた身体（Lived body）」として捉えることを主眼に学んできました。もちろん、セラピーとしては物質的な身体の側面へのアプローチとしては必要なものでもあります。しかし、今後、身体の動きや動作・行為については、現象学という「生きられた身体（Lived body）」を関連する最新の脳科学や生態学的心理学などの分野と関連させ学びながら、指導やセラピーを創造して行く時期となっているのではないかと思います。今回は、中枢性の運動障害に見られ、当事者の運動や動作を阻害する「痙縮」「痙性」を「身体性」から捉え、指導やセラピーといった間接的なアプローチの有効性について探りたいと思います。

講座3では、「動作・行為」の発動について、「介入」といった観点ではなく二人称の「間身体性」の世界で展開される具体的なセラピーから、そこで展開される関係でのセラピストや指導側の姿、その中で現れる行為などについて学びたいと思います。

記

- 1 日 時 2025年7月5日（土）9：15～17：00（受付 8：30～9：15）
7月6日（日）9：15～12：30（受付 8：30～9：15）
- 2 会 場 北海道文教大学 鶴岡記念講堂 911 教室 北海道恵庭市黄金中央5丁目 196-1
- 3 主 催 北海道肢体不自由児療育セミナー開催実行委員会
- 4 協 賛 学校法人 鶴岡学園 北海道 文教大学
- 5 後 援 北海道小児理学療法研究会、北海道感覚統合研究会、北海道自立活動教諭研究協議会
全国障害者問題研究会千歳サークル
- 6 協 力 ちとせ児童発達支援センターはる

7 日程・内容

<1日>

9:15 9:30		12:00 13:00		17:00	
受	開	<講座1> “障害のある子どもたちの育ちを 保障する人間発達を探る” 講演 “<ヨコへの発達>とは何か -故糸賀一雄氏の発達保障論に学ぶ-” 講師 垂髪 あかり 氏	休	<講座2> “脳性麻痺のある人たちの「痙縮」「痙性」に 対するアプローチを考える” 講演1 “VRを使う仮想現実技術を用いた 脳性麻痺の痙縮治療の考え方と実際” 講師 村川 雄一朗氏 講演2 “セラピーでの「痙性」減弱の実際” 講師 落合 裕昭 氏	会
付	式				

<2日目>

9:15		12:15 12:30	
受	<講座3> “セラピーや指導での関係世界に現れる行為の姿 -障害の重い子どもに学ぶ-” 講演 “重い発達障害がある子どもの発達支援 -言葉にならない世界を言葉に-” 講師 本田 慎一郎 氏	閉	会
付			



申し込み QR コード

<1日目>

● 講座1 (9:30~12:00)

<全障研千歳サークル PRESENTS>

テーマ “ 障がいのある子どもたちの育ちを保障する「人間発達」を探る ”

座長 二通 諭 氏 (札幌学院大学大学名誉教授)

現在、発達と言えば、その多くが<タテへの発達>として論じられ、保育や教育、リハビリテーションの関係の文献が書棚に並んでいます。そして、ひとたび障害のある子どもが療育や特別支援教育、小児リハビリの対象となるや、豊かな育ちではなく、未だ「タテへの定型発達」のみが大きな目標にされていないでしょうか。

故糸賀一雄氏(びわこ学園)は、実践の中で障害の重い子どもの発達に悩み失望しそうになった時、おむつ替えの場面で、必死にお尻を持ち上げようとしている子どもの姿を見つけ、<ヨコへの発達>という観点を見出し、「発達保障論」を唱えました。残された資料にはその姿を「関係の発達」と記述しています。

今回の講座では、故糸賀一雄氏が唱えた発達保障論の中で、重い障害がある子どもたちの<ヨコへの発達>をどのように捉え展開していたのかを学びます。これまで当セミナーで学んできた「関係発達論」をも含めて、現在そして今後の実践や臨床をも変える子どもたちの育ちに相応しい「発達」について考えてみたいと思います。

○ 講演 (9:30~10:45)

演題『<ヨコへの発達>とは何か<ヨコへの発達>とは何か

—糸賀一雄の発達保障の思想と実践に学ぶ—』

講師 ^{うた}垂髪 あかり 氏 (鳴門教育大学大学院 准教授)

○ 質疑・応答 (11:00~12:00) コメント/クエスチョナー

・鯨岡 峻 氏 (京都大学名誉教授)

・藤野 友紀 氏 (札幌学院大学准教授)

休憩 (12:00~13:00)

● 講座2 (13:00~17:00)

テーマ “ 脳性麻痺のある人たちの「痙縮」「痙性」に対するアプローチを考える ”

座長 横井 裕一郎 氏 (北海道文教大学学部長 教授/理学療法士)

体性認知協調療法をご存じでしょうか。仮想空間である VR を使ったこの療法の中で、「痙縮」や「痙性」がコントロールできることが報告されています。これは株式会社 mediVR が取り組んでいる VR 機器「mediVR カグラ®」を使った療法です。現象学的身体論の自己身体認知で取り上げられる「ラバーハンド錯覚」での「脱身体化する身体」、また切断での幻肢、その痛みの軽減に行われる「ミラー療法」、その療法が片麻痺の「痙縮」や「痙性」の軽減に効果があることが報告されていますが、今回は VR といった仮想空間を活用したアプローチです。

今回の講座では、脳性麻痺の痙縮を有する方に、この VR を使った「mediVR カグラ®ガイド下脳再プログラミング療法」で痙縮の改善や各種、日常生活動作の改善が図られた取り組みに学びます。併せて、努力性の継続的な筋緊張や動きが少ないことから現れる「痙縮」「痙性」の悪化へのセラピーでの取り組みの成果にも学び、指導やセラピーといった間接的なアプローチでの「痙縮」「痙性」への有効性について考えてみたいと思います。

○ 講演1 (13:00~14:15)

演題『仮想現実 (VR) 技術を応用した脳性麻痺の痙縮治療の考え方と実際』

講師 村川 雄一郎 氏 (株式会社 mediVR /取締役 COO・作業療法士)

○ 講演2 (14:30~15:45)

『セラピーでの「痙性」減弱の実際』

講師 落合 裕昭 氏 (健康体操支援事業所「アシスト」/作業療法士)

○ 質疑・応答 (16:00~17:00)

コメント/クエスチョナー

・土岐 めぐみ 氏

(札幌医科大学医学部 リハビリテーション医学講座/リハビリテーション医師)

・花井 丈夫 氏 (能見台こどもクリニック/理学療法士)

<2日目>

● 講座3 (9:15~12:15)

テーマ “セラピーや指導での関係世界に現れる行為の姿 -障害の重い子どもに学ぶ-”

座長 今野 邦彦 氏 (藤女子大学教授)

重い障害のある子どもの指導やセラピーでは、「介入」といった第三者的な観点から関わり方や道具の操作や行為の獲得を、「～させる」ように展開してしまう場面があるように思います。子どもに麻痺があるなど身体状況から、行為を遂行しやすくする身体に対するアプローチや配慮などは取り組むべき課題ですが、それだけではなく、子ども自身の主体的な行為が現れるような指導やセラピーにこそ、着目すべき大きな実践・臨床上の課題があると思います。

今回の講座では、子どもとの二人称の関りでの療育や小児セラピーでの「接面」とも称すべき関係の世界で展開される具体的な指導・支援の姿を学びます。

講師の本田氏は、セラピーを二人称の関係の世界で「人間が行為する能力が生成されていくプロセスを助けるもの」とし、実践と臨床を積み上げています。今回は、言葉で対話できない重い障害のある子どもとの対話的活動を軸に、ヴィゴツキーの「文化的発達三段階の図式」という発達・学習モデルを使った実際のセラピーについてお話していただき、二項関係でのセラピストや指導側の姿、そこでの子どもの姿、そして結果として現れてくる行為、そこでの本田先生が言う「二重接触」の意味に学び、今後の指導やセラピーのあり方や枠組みなどを考えてみたいと思います。

○ 講演1 (9:15~10:30)

演題 『重い発達障害がある子どもの発達支援 -言葉にならない世界を言葉に-』

講師 本田 慎一郎 氏 (リハ塾 SHIN 代表/作業療法士)

○ 質疑・応答 (10:45~12:15)

コメント/クエスチョナー

- ・ 鯨岡 峻 氏 (京都大学名誉教授)
- ・ 佐藤 公治 氏 (北海道大学名誉教授)
- ・ 岸本 眞 氏 (重症心身障害児者地域生活支援ネットワーク アクトハウス/理学療法士)

7 参加費 一般：両日 9,000 円、1 日目参加 7,000 円、2 日目参加 4,000 円
後援団体会員：両日 8,000 円、1 日目参加 6,000 円、2 日目参加 3,000 円
学 生：両日 5,000 円、1 日目参加 4,000 円、2 日目参加 2,000 円

*参加費の振り込み先の銀行口座については、参加申し込み後にお知らせいたします。

*入金後のキャンセルによる返金はありませんのご承知置さください。

*協賛団体である北海道文教大の学生・大学院生・教職員の参加は無料ですが申込みが必要です。

8 定 員 120 名 (定員になり次第、締め切りとしますので急ぎ申し込みください)

9 申込み URL または QR コードでお申込みください。

必ず e-mail アドレスの記入をお願いします。

【URL】 <https://forms.gle/greoD2WtTc8kxAJ57>

締め切りは6月30日(月)までです。



10 懇親会について

1 日目の5 日(土) 18:30 から、千歳駅周辺で講師を囲んでの懇親会を開催します。

限定15 名ですので早めにお申し込みください。

12 注意事項

* 発熱がある場合、発症して5 日間を経っていない場合は参加をご遠慮ください。

* 駐車場は無料ですが、職員専用の駐車場は使用せず、一般駐車場を利用してください。